

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/27

来週の米雇用統計もそろそろ視野に？

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➡	ユーロ/ドルの動きに注意	2 - 4
		予想レンジ: 79.50 ~ 82.00 円	
<a href="#">カナダ/円</a>	➡	原油・株の動向に注目	5 - 6
		予想レンジ: 80.00 ~ 83.30 円	
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>	一週間の予定を一覧で表示		7 - 8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# USD / JPY

## ドル/円 6/20~24の主な推移

※4時間足



<p><b>6/20</b> Monday</p>	<p>夕方、19日にユーロ圏財務相会合にてギリシャへの120億ユーロの次回融資について、実行可否の結論が7月に先送りされたことを受けてユーロ/円が値を下げると、ドル/円は連れ安となり、一時80.02円まで急落。ただし、80.00円に近付くと底堅く、すぐに反発した(①)。</p>
<p><b>6/21</b> Tuesday</p>	<p>早朝に為替市場全般でのドル安が進んだ影響等を受け、ドル/円は軟化。その後は80.05~80.22円でのみみ合いに終始した。</p>
<p><b>6/22</b> Wednesday</p>	<p>欧州市場中盤から、この日の米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明発表を控え、対欧州通貨でポジション調整のドル売りが先行すると、ドル/円でもドル安が進み、80.00円まで下落した(②)。しかし、この水準では底堅く推移。25時27分頃に発表されたFOMC声明は「政策金利を異例の低水準に長期間維持することが正当化される可能性」「米景気の回復は緩やかなペースで続いているが、FOMCが予想したよりも幾分ペースが鈍い」「回復ペースの鈍化は一時的である可能性」「失業率は引き続き高いが、今後数四半期で持ち直すと予想」「長期的なインフレ期待は安定した状態である」などと、目新しい内容ではなかった。これを受け、発表後のドル/円は事前の下げを縮小する動きになった。その後、27時15分から行われたFOMC後の定例記者会見にて、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長は「失業率の低下は苛立つほど遅い」「FRBの債券保有の水準についての決定はない」「(声明の)『長期間』という文言は少なくとも2~3回の会合を意味する」「状況が正当化されれば、FRBはさらなる行動をとる可能性」「FRBはさらに債券買い取りを行う可能性」などと述べた。金融引き締めと緩和を両方睨んだ慎重な発言に、直後のドル/円相場の反応は限定的だったが、量的緩和第3弾への具体的な示唆がなかったことを受けてNYダウ平均が下げ幅拡大の動きになると、ユーロ/ドルでドル高が進行。これに連れてドル/円でも80.38円までドル高が進んだ。</p>
<p><b>6/23</b> Thursday</p>	<p>前日のドル高の流れを引き継いだ他、日経平均が堅調に推移する中でクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)が上昇する中で、ドル/円は80.64円まで上昇(③)。その後は一旦上げ幅を縮小するも、時間外のNYダウ平均先物が下げ幅を拡大し、対欧州通貨でドル高が進むと、ドル/円でもドル高が進行し、80.79円の高値をつけた(④)。ただ、21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が42.9万件と予想(41.5万件)より悪い結果になると、ドル/円は反落。ただ、80.30円台では再び反発するなど、底堅さも見せた。</p>
<p><b>6/24</b> Friday</p>	<p>夕方、一時80.60円まで上昇するも、17時に独月IFO景況指数が114.5と市場(113.4)と予想を上回り対ユーロでドル売りが強まると、ドル/円でも週末のポジション整理などを絡めながらドル売りが優勢となり、一時80.13円まで値を下げた(⑤)。しかし、その後も売り進める動きは続かず、80.40円台まで値を戻した。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## USD / JPY

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

## 今週の見通し

先週のドル/円は値幅僅か79銭で横ばいの展開となった。為替相場全体の動きをユーロが主導した結果、ユーロ/ドルとユーロ/円の動きが干渉しあい、ドル/円は方向感にかなり乏しい状態だった。

今週の米国は経済指標発表が多く予定されている。27日に発表される5月個人支出などは注目度としては低めだが、28日発表の4月S&P/ケース・シラー住宅価格指数や6月消費者信頼感指数、6月リッチモンド連銀製造業指数、29日発表の中古住宅販売成約、30日発表の新規失業保険申請件数や6月シカゴ購買部協会景気指数、7月1日発表の6月ISM製造業景況指数など、注目度が高めの経済指標が続いている。また、今週は米国債入札(27日:2年債、28日:5年債、29日:7年債)も予定されているほか、要人発言の機会も毎日のように予定されている。これらを手掛かりに今週のドル/円相場は値動きするものと考えられる。週後半以降は、来週末に発表される米雇用統計を視野に、新規失業保険申請件数やISM製造業指数の構成要素の一つである雇用指数は特に注目されそうだ。

ただ、最近のドル/円相場は対ユーロでのドルの動きに大きく連れる場面が増えており、上記材料の内容だけでなく、それを受けたユーロ/ドルの動きにも十分気をつけておきたいところだ。例えば、経済指標で良好な結果が出て、発表直後のドル/円がドル高に振れたとしても、それを受けてNYダウ平均が上昇し、ユーロ/ドルでユーロ高・ドル安が進んでしまえば、ドル/円はドル安・円高に転じることは十分にあり得る。また、ユーロ/ドルの方向感をはかる上で、欧州の経済指標や重債務国の債務問題に絡む報道にも同様に注意する必要があるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:79.50~82.00円)

# USD/JPY

## テクニカル分析

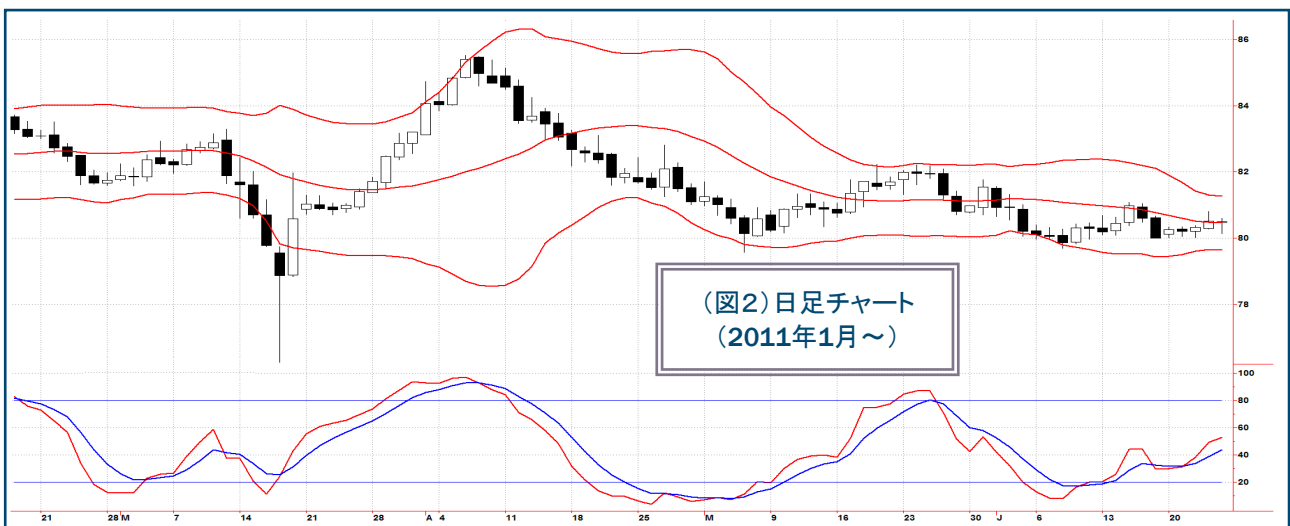
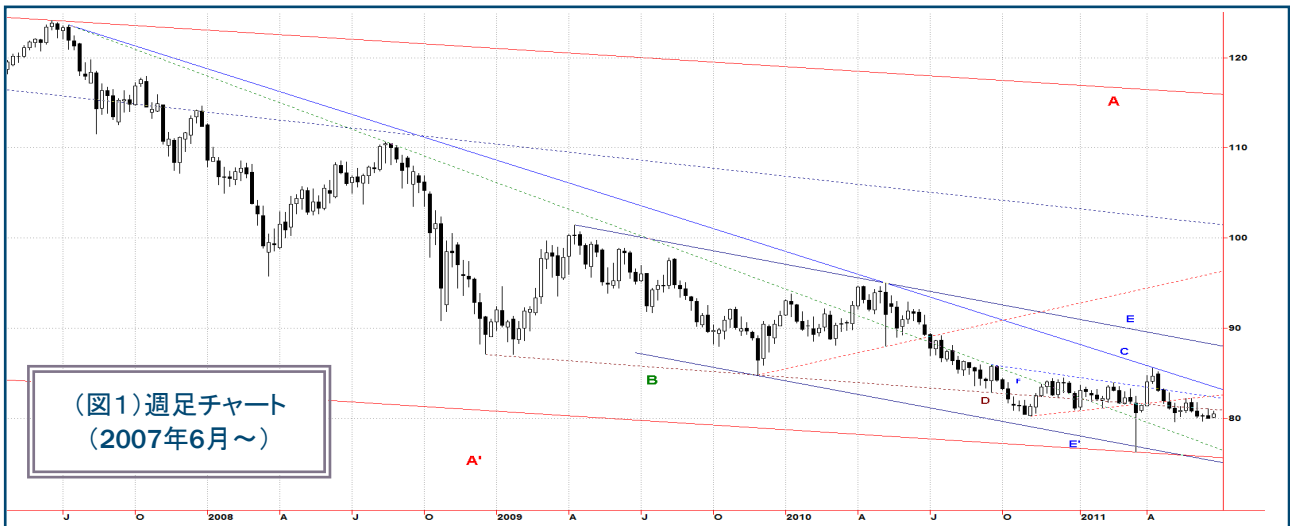
●ドル/円 6/25週足引値:80.48円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値80.80円～安値80.02円と78銭の狭い値幅の一週間となった。

週末引値80.48円は、20日線(80.46円、6/25)とほぼ同じ水準だが、40日線(80.79円、6/25)、60日線(81.55円、6/25)、200日線(82.24円、6/25)を下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(6/25時点)は上限:81.27円～下限:79.64円であり、バンド幅が狭くなっている。

週足チャート(図1):先週は小さな陽線となった。あまり強烈な印象はない。

日足チャート(図2):先週は木曜日の上昇、金曜日の下落の2つのみが印象的な相場展開だった。あまりに小動きな展開であり、上下どちらかに2円動く相場の気配を感じる。その上下がどちらかは分からないが、ついていくことになるのだと思う。クロス円の上値の重さからすると下値トライかな、と思うが、この辺は予断を持たない方がいいと考えるので、まずはニュートラルに構えたい。78.00～82.00円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## カナダ/円 6/20～24の主な推移



6/20 Monday	19日夜に行われたユーロ圏財務相会合でギリシャ支援についての結論が先送りされた事を嫌気して欧州株が安く始まった事に加え、原油価格が2%近い大幅下落となった事を受けてカナダ/円は81.26円の安値を付けた。(①)しかし、その後ユンケル・ユーログループ議長やレグリング・欧州金融安定ファシリティ(EFSF)最高経営責任者による欧州債務危機克服に向けた前向きな発言を受けて、安く始まったNYダウがプラス圏に切り返すとカナダ/円も反発した。
6/21 Tuesday	ギリシャが国際支援を受けるために必要な緊縮財政措置の議会承認に向けて行われる予定の改造内閣に対する信任投票で、パンドレウ新内閣が信任されるとの見方が強まった安心感から、NYダウ平均株価が上昇すると、カナダ/円は82円台半ばまで上値を伸ばした。(②)
6/23 Thursday	国際エネルギー機関(IEA)が、6000万バレルの石油備蓄放出を発表すると原油価格が最大6%の大幅下落となった。米新規失業保険申請件数の弱い結果を受けてNYダウ平均株価が230ドルを越える下げとなった事もあり、カナダ/円は81.94円まで下落した。(③)
6/24 Friday	格付け会社による格付け見直し引き下げを受けてイタリアの銀行株が大幅に下落し、一時売買停止となった事に加え、ギリシャ与党の議員が(国際支援の条件とされる)同国財政緊縮法案に反対票を投じる見通しと報じられた事を受けて、欧州株がマイナス圏に転落。その後、前日の大幅下落の反動から一時持ち直していた原油価格が90ドルを割り込んで下落し、NYダウ平均株価も前日比1%近く下落するなど、リスク回避の動きが強まると、カナダ/円は81.33円まで下落した。(④)

## 上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり  
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

## 下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 今週の見通し

先週のカナダ/円相場は81.26円～82.84円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.2%の小幅下落(カナダドル安・円高)となった。先週は、カナダドルと連動性が高い原油価格が約1.7%の下落、NYダウ平均株価が約0.6%の下落と、リスク回避ムードがやや強まったものの、カナダ中銀(BOC)が7月にも利上げを再開するとの見方が、カナダ/円の下値を支えているようだ。こうした中、29日には加5月消費者物価指数が発表される。事前予想では+3.2%(前年比)となっており、これは4月の+3.3%をやや下回るものの、BOCのインフレ目標である2%を大きく上回っている。ただ、足元では、原油価格が下落傾向を強めるなど、インフレ期待は高まりにくい状況にあり、カナダ経済と連動性が高い米国経済の減速懸念もカナダの利上げ観測に対する向かい風となりやすい。今週のカナダ/円相場は、原油価格や主要国の株価動向を睨んでの値動きとなりそうだ。(神田)

(予想レンジ:80.00～83.30円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

— 20日線

— 60日線

— 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

— +2シグマ

— -2シグマ



## ●カナダ/円 6/25週足引値:81.45円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/6/25安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。

取引値は20日線(82.33円、6/25)、200日線(83.00円、6/25)や60日線(84.30円、6/25)を下回ってきている。ボリンジャーバンドは6/25現在、上限83.59円～下限81.06円であり、バンドの下限が横這いの中、バンドの上限は下落しており、現在のカナダ/円の動きが下落トレンドと思わせるものがある。4/08に直近高値の89.49円を見てからゆるやかに下落の流れとなって進行している。先週は60日線がしっかり上値抵抗線となった。下値はボリンジャーバンドの下限に近付いてきている。このパターンは上値が重い中、ややもすると下値方向への力がかかりやすいと見られる。今後、本格的な81円や80円割れを警戒するところだが、ゆっくりなのか、速いのが気になる。上値ポイントは①82.33円(20日線、6/25段階)、②84.30円(60日線、6/25段階)、③84.50円(5/31高値)であり、下値ポイントは①81.00円(キリのいいところ)、②80.00円である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (6/27~30)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/27	07:45	○	(NZ) 5月貿易収支	+11.13億NZD	—
(月)	21:30		(米) 5月個人支出 [前月比]	+0.4%	+0.4%
	21:30		(米) 5月個人所得 [前月比]	+0.4%	+0.1%
	21:30		(米) 5月PCEデフレーター [前年比]	+2.2%	+2.4%
	21:30		(米) 5月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.2%	+0.2%
	21:30		(米) 5月PCEコア・デフレーター [前年比]	+1.0%	+1.1%
	26:00		(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
6/28	15:00		(独) 7月GfK消費者信頼感調査	5.5	5.3
(火)	17:30	○	(英) 第1四半期GDP・確報値 [前期比]	+0.5%	+0.5%
		○	(英) 第1四半期GDP・確報値 [前年比]	+1.8%	+1.8%
	17:30		(英) 第1四半期経常収支	-105億GBP	-45億GBP
	22:00	○	(米) 4月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.61%	-4.00%
	23:00	○	(米) 6月消費者信頼感指数	60.8	61.5
	23:00	○	(米) 6月リッチモンド連銀製造業指数	-6	-2
	未定	○	(独) 6月消費者物価指数・速報 [前月比]	±0.0%	+0.1%
		○	(独) 6月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	26:00		(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
6/29	08:50		(日) 5月鉱工業生産・速報 [前月比]	+1.6%	+5.5%
(水)			(日) 5月鉱工業生産・速報 [前年比]	-13.6%	-6.1%
	17:30		(英) 5月消費者信用残高	+5億GBP	+4億GBP
	17:30		(英) 5月マネーサプライM4・確報 [前年比]	-0.9%	—
	18:00		(ユーロ圏) 6月消費者信頼感・確報 [前年比]	--	—
	20:00	○	(加) 5月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.2%
		○	(加) 5月消費者物価指数 [前年比]	+3.3%	+3.2%
	23:00		(米) 5月中古住宅販売成約 [前月比]	-11.6%	-1.0%
	26:00		(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—
6/30	07:45		(NZ) 5月住宅建設許可 [前月比]	-1.6%	—
(木)	08:01		(英) 6月GfK消費者信頼感調査	-21	-24
	16:55	○	(独) 6月失業率	-0.8万人	-1.3万人
	16:55	○	(独) 6月失業者数	7.0%	7.0%
	17:00		(ユーロ圏) 5月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.0%	+2.2%
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.8%
	18:30		(南ア) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.6%	—
	19:00		(日) 外国為替平衡操作の実施状況 (5月30日～) [月ベース]	0円	—
	21:00		(南ア) 5月貿易収支	-24億ZAR	—
	21:30	○	(加) 4月GDP [前月比]	+0.3%	-0.1%
	21:30	◎	(米) 6/25までの週の新規失業保険申請件数	42.9万件	--
	22:45	◎	(米) 6月シカゴ購買部協会景気指数	56.6	54

## 経済指標カレンダー (7/1)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/1	—		香港休場(特別行政区成立記念日)、トロント休場(建国記念日)		
(金)		○	(日) 5月全国消費者物価指数 [前年比]	+0.3%	+0.1%
	08:30	○	(日) 5月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	+0.6%	+0.5%
	08:30		(日) 5月失業率	4.7%	4.8%
	08:50	○	(日) 日銀短観 [大企業製造業業況判断]	6	-7
		○	(日) 日銀短観 [大企業製造業先行き]	2	2
			(日) 日銀短観 [大企業非製造業業況判断]	3	-4
			(日) 日銀短観 [大企業非製造業先行き]	-1	0
			(日) 日銀短観 [設備投資計画: 前年比]	-0.4%	+2.0%
	17:30	◎	(英) 6月PMI製造業	52.1	52.5
	17:30	○	(ユーロ圏) 5月失業率	9.9%	9.9%
	22:55		(米) 6月ミシガン大消費者信頼感指数 ・確報値	71.8	72
	23:00	◎	(米) 6月ISM製造業景況指数	53.5	52.0
	23:00		(米) 5月建設支出 [前月比]	+0.4%	±0.0%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com